

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤にして、これからの変化する社会に主体的に対応して生きていくための豊かな人間性や、たくましい心身の育成を目指し、次の目標を掲げる。

- 自ら学び、すすんで努力する生徒 ○ 他を思いやり、礼儀正しい生徒 ○ 正しい判断力をもち、心身ともに健康な生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 互いの人権を尊重し、優しさや思いやりの心にあふれる学校 ○ 確かな学力を育み、学ぶ楽しさを実感できる学校 ○ 地元綾瀬の一員として、地域に愛され、地域に貢献する学校
○生徒像	○ 自らの生き方に自信のもてる生徒 ・自ら学び、根気強く努力する生徒 ・礼儀正しい生徒 ○ 知・徳・体の調和のとれた生徒 ・自分も他の人も大切に作る生徒 ・心身ともに健康な生徒
○教師像	○ 生徒を一人の人間として尊重し、こよなく愛す教師 ○ 組織の一員として、連携と協力体制を築く教師 ○ 保護者や地域と協働して、教育を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<現状>

- ・生徒は落ち着いて授業に取り組み、自分の将来の夢に向かって着実に努力している。
- ・生徒会活動や委員会活動、部活動や学校行事等を通じて、生徒相互の信頼関係が深まり、自己有用感が向上している。
- ・地域の皆様や教員からの声掛けにより、大きな声で「あいさつ」ができる生徒が増え、生徒の明るい声が行きかう学校となっている。

<前年度の成果と課題>

- ・授業改善に向けた組織的な取組や生徒一人一人に応じた学力向上に対する取組が定着してきた。
- ・「認める ほめる」指導や人権教育の視点に基づく授業改善、一人一人の生徒に寄り添った、きめ細やかな指導が成果を上げている。
- ・引き続き生徒の自尊感情を高め、人権感覚のさらなる高揚を図るとともに、心理的安全性の高い学校づくりを推進していきたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	I C Tの有効活用	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項ー 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と学力の定着		<ul style="list-style-type: none"> 年度末実施の到達確認テストの正答率各学年 60%以上 次年度区学力調査通過率各学年 60%以上 		<ul style="list-style-type: none"> 正答率は1年生が国 71.4%、数 56.3%、英 58%、2年生が国 73%、数 61%、英 50.8%であった。 令和6年度の結果待ち 		教科間、学年間での数値の差があり、組織的な取組を強化する必要がある。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	(1) 授業力向上	全生徒 全教科	通年	①小中連携授業研究 ・足立スタンダードに基づく授業改善(年3回) ②管理職による授業観察 ・授業観察時に全教員が学習指導案作成(年2回) ③生徒による授業アンケートの実施(年2回) ・「授業の振り返りの有無等について全生徒が回答	①年度末到達確認テストによる検証 ②次年度区学力調査による検証 ③生徒授業アンケートによる検証	①年度末到達確認テストの正答率各学年 60%以上 ②令和6年度区調査通過率各学年 60%以上 ③生徒授業アンケートの数値向上	①正答率は1年生が国 71.4%、数 56.3%、英 58%、2年生が国 73%、数 61%、英 50.8%であった。 ②次年度の結果待ち ③71%の生徒が、授業の振り返りを実施していると答えた。	1年生の区の平均との差は、国-4.8p、数+6.6p、英-2.1p、2年生はそれぞれ-1p、+14.9p、-9.3pであった。 授業アンケートについては、同項目が1回しか行えておらず、経年の推移が不明であるため、次年度改善する。	△

新規	(2) 主体的に学習に取り組む態度の向上	全学年 全教科	通年	<p>・家庭学習課題の充実及び家庭学習の習慣化</p>	<p>①保護者による学校評価</p> <p>②生徒アンケート等</p>	<p>①保護者による学校評価で「家庭学習に関する指導が充実している。」とする回答70%以上</p> <p>②生徒アンケートで「自ら進んで粘り強く勉強している。」とする回答70%以上</p>	<p>①65.7%の保護者が肯定的な回答をしている。</p> <p>②85.7%の生徒が、粘り強く勉強している内容で肯定的な回答となった。</p>	<p>保護者の意見が、比較的 low、全項目内で2番目に否定的な回答率となっている。家庭学習の周知や充実を図るとともに、保護者への周知も必要である。</p>	△
継続	(3) サマースクール	全生徒 数学 英語	夏季 休業日 中の 7日間	<p>①基礎学力の定着及び学習の習慣化、学習意欲の向上</p> <p>②小学校教員による算数特訓の実施</p>	事前テスト 事後テスト	最終日に事後テストを実施し、正答率10%以上上昇	正答率は 数学平均13%上昇(1年+19%、2年+6.0%、3年16%) 英語平均1.5%上昇(1年+0.3%、2年-4.0%、3年8.2%)	<p>数学はおおむね目標を達成することができたが、英語は全学年通して+10%の上昇させることができなかった。単語や表現が変わると同じ構文の問題でも間違ってしまう。継続して基礎の演習は必要である。</p>	△

継続	(4) 放課後補充教室 ・AIドリルタイムの充実	全生徒 国語 社会 数学 理科 英語 その他	通年	①全生徒を対象に、AIドリルを使った補充学習を実施	①年度末到達度確認テストによる検証	①年度末到達度確認テストの正答率各学年60%以上	①正答率は1年生が国71.4%、数56.3%、英58%、2年生が国73%、数61%、英50.8%であった。	特に国語・数学は比較的AIドリルの活用結果が数字に表れている。今後、他教科について活用方法の検証等を行い、充実を図っていく。	△
				②定期テスト対策	②次年度区学力調査による検証	②令和5年度区調査通過率各学年70%以上	②3科で1年生74%、2年生54%、3年生67%であった。2、3年生の数学が45%前後の通過率であった。		
				③英検対策講座	③英検受検合格率		③英語検定は合格率65%であった		

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の自己肯定感・自己有用感の向上	生徒意識調査における関係質問項目の数値向上	1, 2, 3年それぞれ頼られている37.6%、39.2%、52.9%感謝された55.7%、51.1%、67.3%	学年が上がるについて、生徒の自己肯定感に関する数値が上がっている状況があり、指導過程において、適切な指導が行われていることが分かった。今後はPBSを取り入れ、積極的に指導力向上を目指していく。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
WEBQUの有効活用による生徒理解の深化及び学級指導の改善・充実	・WEBQU第2回調査時に「学級生活に満足している」と回答している生徒割合を第1回調査時よりも向上させる。	①WEBQU実施時における研修会及び事例研究(年2回) ②具体的な取組及び調査による成果検証	①各回に期間を設定して、学年毎にアセスメント・検討会を実施した。 ②2回目の結果を受けて、学年毎に成果検証をした。	「学校生活満足群」全国平均 41%に対して本校平均は 42.4%であった。しかし、1回目 43.2%→2回目 42.4%と前回比で低下している。1回目実施後の検討会にて設定した取組目標が効果的でなかった可能性がある。クラスによっては明らかな向上が見られるところもあり、一概には言えない。次年度は、取組目標や成果検証の結果を全体で共有する場を設定したい。	○

<p>教育相談の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の出現率を前年度比1%縮減 ・学校と関わりのもてない生徒を根絶 	<p>①担任教員による2者面談及び全教員による教育相談実施(各1回以上)</p> <p>②教育相談部会の定例実施(週1回)</p>	<p>①担任による2者面談はこのあと年度末に実施予定。全教職員による教育相談を11月に実施した。</p> <p>②定例実施できた。</p>	<p>不登校生徒の出現率は10.6%→7.0%と減少している。</p> <p>「学校と関わりのもてない生徒」は前年度2名に対し、今年度も2名であった。</p> <p>遅刻・早退・別室登校等、多様な登校スタイルに柔軟に対応していることが、生徒や保護者への安心感につながり、登校できている。学校と関わりのもてない生徒については、保護者との関わりを絶やさないことや、多方面からのアプローチを検討し試みる等、引き続きしていく必要がある。</p>	<p>○</p>
<p>PBS（ポジティブな行動支援）による生徒の自己肯定感・自己有用感の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・足立区学力調査・生徒意識調査の「学級の人から頼られている。」「学級の人から感謝されることがある。」等の設問に対する肯定的回答群の割合を80%にする。 	<p>① 校内研修</p> <p>②開かれた学校づくり協議会ボランティアカード等を活用したポジティブな行動支援</p>	<p>①PBSについて石黒先生を招へいた校内研修を2回実施し、次年度からの校内の指標を作成中。</p> <p>②地域等からのボランティアを12回(12月末まで)依頼された。のべ参加人数は1年75名、2年98名、3年102名、全学年275名であった。</p> <p>「意識調査」</p> <p>1, 2, 3年それぞれ頼られている37.6%、39.2%、52.9% 感謝された55.7%、51.1%、67.3%</p>	<p>足立区学力調査・意識調査の結果から、学年が上がるにつれて、「頼られている」「感謝されたことがある」の数値が全体的に上がっていることが分かった。学校内で過ごすことで自己肯定感・有用感が上昇している。</p>	<p>◎</p>

重点的な取組事項－3		ICTの有効活用			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
ICTを活用した「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査通過率各学年 65%以上 年度末実施の到達確認テストの正答率各学年 60%以上 	<p>①正答率は1年生が国71.4%、数56.3%、英58%、2年生が国73%、数61%、英50.8%であった。</p> <p>②3科で1年生74%、2年生54%、3年生67%であった。2,3年生の数学が45%前後の通過率であった。</p>	学年間や教科間による数値の差があり、組織的な対応の強化が必要だと考える。	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
AIドリルの有効活用	<p>①生徒の活用率100%</p> <p>②生徒授業アンケートで、有効に活用されたとする回答80%以上</p> <p>国語、数学、英語、社会、理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習及び放課後補充教室での活用 (AIドリルタイム) 授業での活用 家庭学習での活用 	①活用率は100%達成している。	今後も、AIドリルタイムの設定継続や補習学習等においてAIドリルを活用していく。	○
特別支援学級 ICTモデル校の取組推進	生徒アンケートによるICT活用の満足度向上	<p>① AIドリルの活用</p> <p>② ICTを活用した授業改善</p>	<p>①年間の放課後 AI ドリルタイムを設定した。</p> <p>②様々な授業において、ICT 機器を活用した。</p>	生徒個々に応じた、AIドリル課題を設定したり、ICTを活用し興味・関心を高めたりすることを意識した。今後も継続していく。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・AIドリルタイムを設け、放課後全生徒がAIドリルに取り組むようにした。その結果、活用率は100%となっている。
- ・全学年及び教科での学力調査等の数値の差があり、学校全体としての取組を強化する必要がある。
- ・サマースクールが充実しており、多くの生徒が参加することで、基礎学力の向上を図ることができた。
- ・教職員内での人権尊重意識の高揚を図り、生徒の自己有用感や自己存在感の向上を図ることができている。今後はPBSを取り入れさらに組織的対応ができるようにする。
- ・教育相談部会を毎週欠かさず実施し、生徒一人一人の理解を組織的に実施している。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・新型コロナウイルス対応も落ち着き、様々な学校行事が以前のように戻ってきました。子供たちの学校生活の充実度を上げ、安心・安全な学校を目指し、自己肯定感・自己有用感の向上を図り、さらなる安定した学校を目指し、学力の向上にも組織的に対応してまいります。様々な学校の取組については、日頃より保護者の皆様・地域の皆様のご理解とご協力により教育活動が行うことができいております。ありがとうございます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

令和6年度は、新校舎への引越しが予定されており、それに伴う新校舎での生活が後期（10月下旬）からになります。そして、12月には60周年記念式典を予定しています。さらに、東綾瀬中学校、小中連携校において、本校の本年度校内研修で行っている、ポジティブな行動支援（PBS）の視点を取り入れた、生徒指導について取り組みます。情報共有を図り、小学校入学から9年間の義務教育において、この綾瀬の地の子供たちの学力向上、健全育成を目指し、開かれた教育課程を展開してまいります。